



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

今年、私たちは、北東インドでの100周年記念を祝い、1922年1月13日以来、この地方で働いてきたサレジオ会宣教師たちの勇敢な、実り豊かな働きを思い起こします。宣教団を率いたルイス・マティアス神父のモットーは「挑戦し、希望する」です。言葉、文化、伝統、食べ物、気候の異なる土地で、人材不足、資金の欠乏、自然災害に苦しみながらも、勇気ある献身的な宣教師たちが毎年、次から次へとやって来ては、不屈の勇気とどまるところを知らない情熱をもってサレジオの宣教の霊性を生き、豊かな実を結んだのです：まことの「扶助者聖マリアの奇跡」です。

宣教の任務は挑戦を投げかけるものであり、時には不可能のように見えます。しかし、直観に優れ、絶えず若々しいサレジオの精神は、勇気と希望をもって障害を乗り越える新たな方法を見いだします。なぜなら、キリストは、私たちに命令を与えられただけでなく、それとともに約束もくださったのですから：私はいつまでも、あなたがたとともにいる。

■ 宣教促進
南アジア地域コーディネーター
ヨセフ “サニー” ・パラムタッテル神父,
SDB

宣教的シノダリティ



「シノダリティSynodality」は、ギリシャ語の*synodos*、**共に旅を歩む**という言葉に由来します。実は、シノダリティとは、古くから在るものを表す新しい言葉です。**ルカ24章18-35節**のエマオの弟子たちの出来事は、シノダリティの例になります。第二バチカン公会議は、目を向ける特定のテーマ、文書で使われる用語あるいは概念というよりも、公会議の歩みを築き上げる方法を、「共働collegiality」という言葉で表現しました。しかし、公会議が勧めた刷新の働きの中心にあるのはシノダリティなのです。

シノダリティは、単なる話し合いでもなければ、どちらが多数を占めたかを確認する投票をもって終わる議会の審議でも、教義を投票で決めることでもありません。導入されるプログラムでさえありません。シノダリティは、生き方です。参加と共同責任の教会、神の民全体が関わる教会であることです。

シノダリティは、謙遜と敬意をもって、ぶつかり合うさまざまな考えにも忍耐をもって、**注意深く耳を傾ける姿勢**を前提とします。聖霊の促しを**識別し**、知恵と創意工夫をもって**行動する**ためです。

宣教活動は、何よりも、イエス・キリストという方を告げ知らせることです。一方、宣教的シノダリティは、司牧的現実へのアプローチの仕方です。福音を告げるために遣わされたすべての宣教者は、共に旅を歩む者として、その土地の人々に、ほかの宗教の人々に、貧しく疎外された人々の叫びに、注意深く、敬意をもって耳を傾けることを学ばなければなりません。イエスとイエスの福音に近づくために、自らの内に閉じこもるのではなく前進する教会となるために

一人ひとりの回心が常に必要になります。なぜなら、宣教的シノダリティを生きる努力を阻むものが私たちの内にいまだに多くあることを、私たちは謙虚に認めるからです：耳を傾けるよりも教えようとする傾向；特権、権利を持っているという意識；透明性、説明責任に欠けていること；対話に後ろ向きで、若者たちの中であって活気づける存在になっていないこと；コントロールしようとし、自分たちだけが決定権を持っていると主張する傾向；ミッション・パートナーとして信徒・協働者に力をつけさせる信頼に欠けていること；私たちが到着する以前から、それぞれの文化や民族のうちに聖霊がおられるという認識に欠けていること。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと 分かち合いのために

- これまで私は、「シノダリティ」をどのように理解していただろうか？
- 宣教的シノダリティをよりよく実践するには、自分の内にあるどの姿勢を改めるべきだろうか？



ラオス：1つの共同体、 4人のサレジオ会員



マッチョーニ神父様、サレジオ会はラオスで、1つの宣教拠点で働いています。サレジオ会の存在とミッションは、(ほとんどが) 仏教徒である地元の人々にどのように受けとめられていますか？

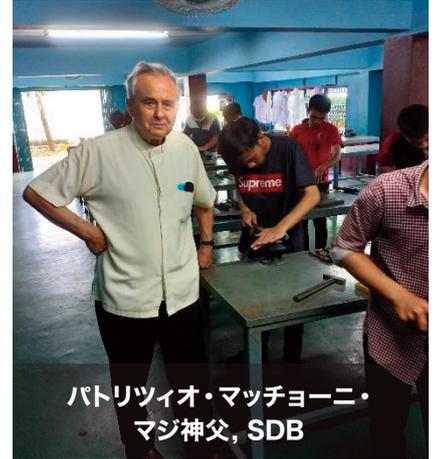
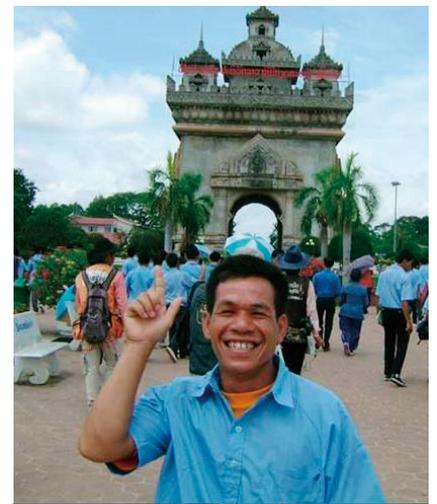
革命ラオス青年連合とタイのサレジオ財団の間で取り交わされ、5年ごとに更新される基本合意書には、私たちの事業が「政治、宗教に関わらない」ものでなければならない、とあります。ですから、公式には宗教活動はできません。私たちの訓練生のほとんどは仏教徒の家庭出身ですが、訓練生の家族はドン・ボスコにとっても感謝しています。政府の役人、企業、工場の人々は、私たちの卒業生の受けている技術的・人間的な育成を評価しています。私たちはドン・ボスコとドン・ボスコの教育法を、宗教的、倫理的な価値をも伝える「道具」として用いています！ 実にドン・ボスコのおかげで、私たちの教育事業は意味深いものになるのです！

責任ある人間として生活し、人生を生きる職業の道を築いていこうラオスの若者を助け、力をつけさせるために、神父様や神父様の共同体はどのようなことを行っているのですか？

ビエンチャン・ドン・ボスコ青年職業訓練センターは、タイ管区による、16歳から30歳の貧しいラオス青年のための支援プロジェクトです。自動車修理、電気(それぞれ1年のコース)、バイク修理、溶接技術(それぞれ4か月のコース)の仕事を教えています。毎年卒業する140名の訓練生は、就職先を見つけることに成功しています。ドン・ボスコは技術的な訓練に加え、良い人間教育も若者たちに提供します。将来の家庭生活や、社会に出て働くことに備えるためです。センターでは、規律や秩序、清潔さ、礼儀正しさ、自己犠牲を学ぶ機会となる活動を行っています。道徳や宗教の理念、人と関わる姿勢について、働くことの尊厳と価値、健康保険、労働市場などについて講話を行っています。

ラオスには4人のサレジオ会員：イタリア人2人、ベトナム人2人がいますね。共に暮らし、働く中で、難しいことはありますか？

現在、ラオスで唯一のサレジオの存在である私たちの共同体は、2人のベトナム人会員と1人のイタリア人会員で構成されています。性格や文化的背景の違いは、どこの共同体にもあります。お互いを受け入れ合うことは、成熟と皆にとつての成長のしるしです。私たちの共同体にとつてのいちばんの挑戦は、貧しいラオス人訓練生のためのミッションです：彼らの言葉で話し、彼らの文化の価値観を受け入れ、評価すること、私たちの能力と時間を彼らのために差し出すことです。それは私たちの働きがより実り豊かな、使徒的なものとなるためであり、そうして、将来のラオス人サレジオ会員の召命の可能性のために土壌を用意することになるのです！



パトリツィオ・マッチョーニ・マジ神父, SDB

イタリア出身、77歳。18歳のときにタイへ。タイで53年働いた後、ラオスのビエンチャンに派遣され、6年近く同地で働く。

ラオス青年連合との関わりにおいて、タイのサレジオ財団の代表を務める。また現在、共同体の院長、校長を務める。

S.D.B. 統計 2021年12月31日現在

フ
ォ
ー
ラ
ム

- 世界のサレジオ会員の総数(立願者+修練生+司教)は、**14,028人** [参考:2020年末は14,232人]
- 入会者(新たな立願者379名)と立願者の減少数(533名の死亡または退会)の差は、**-154人** [参考:2020年末は-266名]
- 各地域の、2020年から2021年にかけての立願者+修練生の人数の増減:
 - アフリカ-マダガスカル **+156** ■ 南アジア **-7** ■ 東アジア-オセアニア **-18**
 - 南米サウスコーン **-35** ■ インターアメリカ **-80** ■ 中央・北ヨーロッパ **-82**
 - 地中海 **-130**



8月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

小規模事業のために

ラオスのサレジオの環境にいる若者たちが、勇気を持ち、積極的に、責任感をもって収入を得る道を歩みますように。

小規模、中規模の事業のために祈りましょう。経済的、社会的な危機のただ中で、営業を続け、共同体への貢献を続ける道を、見いだすことができますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

ラオスの
ために

